

切らない乳がん治療



2025.5 Vol.30



今回は
乳がんに対する
「ラジオ波による焼灼療法」
について
ご紹介いたします

ラジオ波による^{しょうしゃく}焼灼*療法

「ラジオ波による焼灼」とは、皮膚の上から特殊な針をがんに直接刺し、そこに通電することで発生する熱を用いてがんを焼灼する治療法です。(図1)

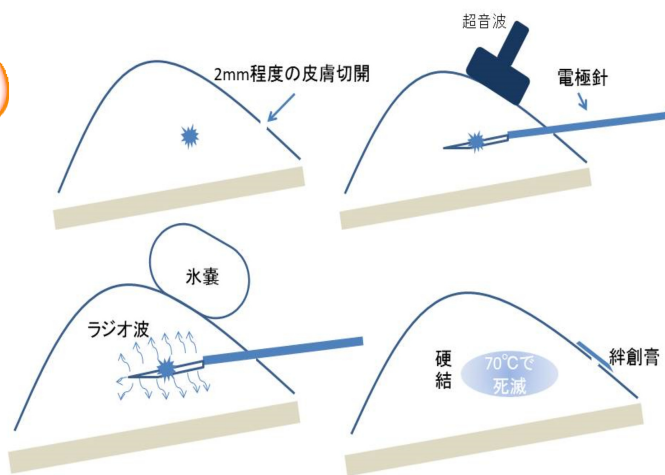
肝臓や腎臓などでは広く普及し実践している治療ですが、この度相澤病院では、長野県で初となる乳がん治療にも実践し、乳房にメスを入れない低侵襲治療*が可能となりました。

*焼灼: 焼いて死滅させる

*低侵襲治療: 手術・検査などに伴う痛み、発熱・出血などをできるだけ少なくする治療

ラジオ波焼灼療法の実際

図1



2024年10月1日より、早期乳がんに対するラジオ波焼灼療法が施行されております。この治療が万能であるわけではありませんが、きちんと治療ができることを確認できれば「メスを入れない治療」が可能となります。すでに、何人かの患者さんがこの治療を受けられました。

慎重な経過観察を行う

通常の手術であれば、がんを切り取り、病理検査を行い、がんの様々な情報や評価（悪性か良性かなど）をします。ラジオ波焼灼療法では、手術で患部が摘出されないため、手術後に再度の生検検査を行ったり、定期的なMRI検査などでの慎重な経過観察が必要となります。また、それらの検査によって「がんが生き残っている可能性がある」と判断された場合には、その時点で従来の手術療法に切り替えることになります。

＊生検：腫瘍の一部を切り取り詳しく調べる検査



検診を受けましょう！

当院で実際治療を行った患者さんは、健診のマンモグラフィー検査で要精査となり、受診されました。検査の結果、乳がんと診断され、ラジオ波焼灼療法が行われました。入院の上、ラジオ波焼灼療法が行われ、治療の翌々日には退院されています。

全ての乳がんの患者さんに、この治療が適応するわけではありません。検診で発見されるような乳がん＝自分で気付くのは難しいくらいの早期の乳がんであれば治療の適応にならないことが多いです。なので、「健診をきちんと定期的に受けること」「要精査の結果が届いたら速やかに精査を行うこと」がとても大切です。

相澤健康センターでも乳がん検診が受けられます

乳房検査(乳がん検診)について

【検査の種類】

マンモグラフィー検査

乳房専用のレントゲン検査です。圧迫することで乳腺を広げてできるだけしこりなどの病変と分離させて見やすくします。微細石灰化や構築の乱れを見つけやすいです。

乳房超音波検査

ゼリーを塗って専用の器具でなでるように検査をします。放射線被曝はないので、授乳中や妊娠中の方も検査することができます。しこりや乳管内病変を見つけやすいです。

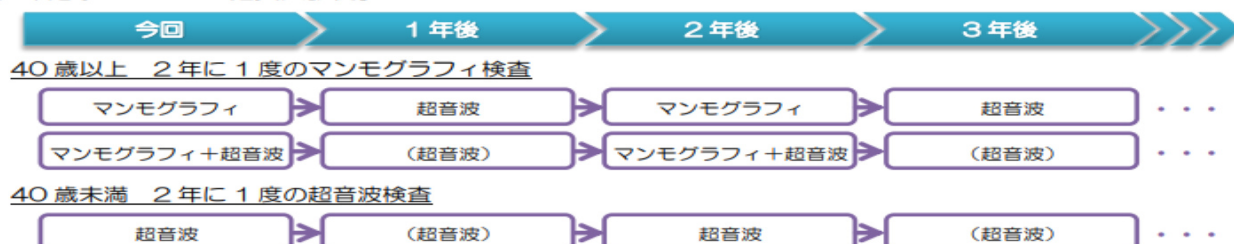
視触診検査

乳房の状態を診察し、乳房のひきつれやしこり、腋窩リンパ節の腫れ、乳頭分泌などの変化を診る検査です。必ず画像検査と一緒に検査をします。

【乳がん検診の受診間隔と検査の組み合わせ】

乳がん検診は、厚生労働省の指針により、40歳以上で2年に1度のマンモグラフィー検査が推奨されています。これは対策型検診といって、公的補助を利用して受診する検診です。対策型検診としての乳房超音波検査については、有用性について検討されているところであり、今後、導入も期待されます。

【相澤健康センターの推奨受診例】



市町村によって、補助の方法は少しずつ違いがあり、例えば松本市の場合は、超音波検査は30歳以上で毎年補助の対象です。また、マンモグラフィー検査は40歳以上で2年に1度は補助の対象となるので、40歳以上はどちらか一方の画像検査で毎年補助を利用することができます。